

全国知事会 記者会見録

○全国知事会委員会等の新体制について

- ・ 日 時：令和元年9月27日（金）15:10～15:28
 - ・ 会 場：都道府県会館知事室（6階）
 - ・ 出席知事：飯泉全国知事会会長（徳島県知事）
-

（進行役：調査第三部長）

それでは、ただいまから記者会見を開始いたします。まずは、全国知事会の飯泉会長の方からお話申し上げます。それではよろしくお願い申し上げます。

（飯泉全国知事会長）

それでは、私の方から今日付、9月27日付けとなります、全国知事会の委員会などの新体制について発表させていただきます。

全国知事会におきましては、国地方協議の場あるいは、政府主催の全国知事会議、これは正式名称では「全国都道府県知事会議」と言いますが、これが大体、10月、11月と間近にせまってくるということで、それぞれ、国に対して時宜を得た政策提言、これを行っていく必要があります。特に9月3日、私が知事会長に就任することにより、私が就いていた例えば委員会での委員長であるとか、あるいは、プロジェクトリーダー長であるとかこうしたものが抜けていくこととなりますので、新しい体制を作り替える必要があります。

また、高知県の尾崎知事さんの方から社会保障の常任委員長、これを早い段階で変えてもらいたい。こうした御要請もありましたので、それぞれについての全体的に大幅に見直しをする。という形を取らせて頂きました。

そこでまず、全体的な考え方について申し述べたいと思います。

常任委員会あるいは特別委員会の委員長につきましては、やはり経験豊富なベテランの知事さん方を。また、副委員長には各分野における造詣の深い知事さん方をあてさせていただきました。

一方で、PTつまりプロジェクトチームのリーダーあるいは副リーダーにつきましては、なるべく若手の知事さんに、担っていただこうと。もちろん、その方面で造詣、あるいは高い関心を持っている。こうしたことは言うまでもないところではありますが、こうした配置をさせていただきました。

それでは、まず1ページ、こちらをご覧ください。こちらには会長あるいは副会長。副会長は各ブロック選出となっているところであります。

それでは、その次のページ、2 ページからご覧頂きたいと思います。

委員会などの新体制について。ということで真ん中の欄に新体制を書かせていただくとともに、赤字で書いた場所、これが新たに就任をして頂く知事さん方となります。

それでは、各常任委員会について少しお話をしてみたいと思います。

地方行政全般、そちらを担う総務常任委員会につきましては、副委員長が私でありましたので、こちらに西脇京都府知事さんに就任をいただきます。

また、さらに全国知事会の規約に基づきますと、プロジェクトチームリーダー、PT 長は所属をする常任委員会の副委員長を務めるということになっておりますので、情報化推進 PT 長である、村岡山口県知事さんが副委員長に就任をすることとなります。そして、新たに情報化推進の PT 長ですね。

次に、地方税財政副委員長。ここは実は鳥取の平井知事さんでありましたが、平井知事さんに後ほど出てまいります、社会保障の常任委員長を引き受けて頂く関係から、負担軽減のために、ここの副委員長を香川県の浜田知事さんに担って頂くことと致します。今回、11 日に改造内閣が行われたところではありますが、大きな錦の御旗。こちらが全世代型の社会保障制度改革ということでありまして、まさにこの社会保障常任委員会、大変重要なこととなります。そこで、尾崎知事さんの後任に平井鳥取県知事さんを委員長に就任をいただくことと致しました。

そしてここの中でも副委員長として新たに、次世代育成支援対策 PT 長を務めて頂く、三日月滋賀県知事さんに副委員長として入って頂くこととなります。

次に、教育施策、文化スポーツ、そして環境対策などを担う文教環境常任委員会につきましては、長らく副委員長を務めて頂いておりました、阿部長野県知事さんに委員長に就任を頂きます。そして、その副委員長につきましては、伊原木岡山県知事に就任を頂きます。

次に 3 ページをご覧ください。特別委員会となります。

特に特別委員会では、知事会の方向性などを定めていく、総合戦略。また、さらには各衆議院選挙、参議院選挙におきまして政党のマニフェストなどの政権評価を行ってまいります、総合戦略・政権評価特別委員長、私が委員長を務めておりましたが、その後任に村井宮城県知事さんに就任を頂くことと致します。

また、さらに危機管理・防災特別委員会、こちらにつきましては、従来、鈴木三重県知事さんに担って頂いておりましたが、鈴木知事さんに地方創生の本部長、こちらを担って頂くこととなりますので、その後任として黒岩神奈川県知事さんに就任を頂くこととなります。

今回の台風 15 号、千葉県、今なお大規模停電などによる影響、余波があるところでもあります。実は関東知事会として、6 都県の皆さん方が千葉県の市・町の方に今、

対口支援であるとか、あるいは災害対応の様々な形でのバックアップ。これを行って頂いているところでもあります。今日は、現地、特に、君津市に訪問させていただきまして、石井市長さんに今の現状であるとか、あるいは部隊展開している東京都、それから千葉県の皆さん方が、丁度災害対策本部で展開をしていますので、皆さん方の激励を。そして、特に今重要となっているのが、罹災証明。この発給窓口についても東京都の皆さん方が展開を頂いておりますので、こうした皆さん方の状況、あるいは、今の現状がどうなっているのか。こうした点についても、つぶさに聞いてきたところでもあります。

そして、さらにはあの鉄塔が倒れたという、風速50m、このように言われておりますが、その現地にも石井市長さんに御案内を頂きまして、東京電力の皆様方からその状況、そしてどのような形で復旧をしていくのか。これは全国の大きな課題ともなるところでもありますので、この点についても現地でつぶさにお話を頂いたところでもあります。

また、7月の全国知事会議において、新たに設置をされました、過疎対策の特別委員会、その副委員長が空いておりましたので、内堀福島県知事に就任を頂きました。

続きまして、本部などについてであります。今も既にご紹介を申し上げました、地方創生対策本部。顧問は知事会長が就任をすることとなっておりますので、私が。そして、新たに本部長には鈴木三重県知事に。また、私が務めておりました、副本部長には長崎山梨県知事に就任を頂きます。

また、全国知事会2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部長及び持続可能な社会保障制度の構築に向けた会議の座長、こちらも知事会長があたりということになっていきますので、私が務めさせていただきます。

4ページをご覧頂きます。プロジェクトチームPT長、副長であります。さすがに、もう触れておりますので、2度目になる部分も多くあります。

まずは、マイナンバーカードの普及、あるいはこれから始まるSociety5.0。この陣頭指揮を取っていただく、情報化推進PT長につきましては、私の後任として村岡山口県知事さんに。また、副リーダーには、鈴木三重県知事さんに就任を頂きます。

また、女性活躍の推進に向けた対応を行う、男女共同参画の副リーダーにつきましては、ここを新たなポストを作りましたので、大井川茨城県知事さんに。

また、少子化又は困難な環境にあるお子さんへの支援。これを行う、次世代育成支援対策のPT長、これを三日月滋賀県知事さんに。そして、副リーダーには大井川茨城県知事に就任を頂くことと致しました。

次に、行財政改革などを行ってまいります、地方発の行政改革PT。こちらの副リ

一ダーには、杉本福井県知事さんに就任をいただくこととなります。

こうした形で、新体制では12の委員会、また8つのPT合わせて24の委員会など、計54のポストに33知事が就任することとなります。また、6つの副会長ポストを含めると、60のポストに37都道府県の知事さん方に就任いただくこととなります。

以上が、9月の27日付けでの新体制となります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(進行役：調査第三部長)

では、質問をお受けいたします。質問のある方挙手をお願いいたします。

(記者：共同通信)

地方創生対策本部で鈴木知事が本部長を務められるが、これは、鈴木知事がどのような役割を担うことを期待されてお決めになったのか。また、地制調（地方制度調査会）の会議にこれまで古田知事が出ていたと思うのですが、今後出席するのは鈴木知事になるのでしょうか。

(飯泉全国知事会長)

まず前段のところですが、従来の地方創生。国も大きな御旗を挙げていただいたところでもありますので、古田本部長さん、私が副本部長という体制で行って参りました。

しかし、これからは第二期のまた新たな次元を変えた地方創生。というのも国の人口推計が思うようにいっていない。つまり、この国の人口減少、これを当時は、平成26年6月3日段階では、2060年の人口推計は1億と定めたんですね。

しかし、1億を割るのは2053年と今の社人研から想定が出ているところであります。

そうなりますと、この東京一極集中の是正、これもなかなか冷めやらないわけがありますが、とにかく日本全体が人口減少をいかに緩やかにするか、またはいかに増やしていくのか。こうした点を考えると、やはりここは体制を一新した方が良いのではないかと。古田本部長とも相談させていただいて、行動力が非常にある三重県の鈴木知事さんにこちらに回っていただくこととした。そしてフレッシュな感覚でということで、長崎山梨県知事さんに副をとという形をとらせて頂いた。

これからは、国ともいろいろな、あるいは地方の意見の集約という大変重要な局面を迎えてくるところでもありますので、より行動力を求められる。今回の正副に期待したいと思っております。

それから、地制調の話ですが、実は本部長として行っていたのではなくて、総務常任委員長として、岐阜の古田知事が行かれていたということになります。ただ、

地方創生の本部長を兼ねていたということもありまして、どうしても出席がかなわない機会が多かった。

ただ、市長会、町村会はともに会長が入っているんですね。そうした関係と、今、2040年対応。大きな圏域で対応という案が総務省でも出ているところですが、市長会、町村会からもできれば全国知事会も会長に出ていもらいたいという強い要請を事務局の方にもいただいていたので、これからは私が地制調の委員として出ることにしたいと思います。

ちなみに、前回の地制調では古田委員長の代わりに私が代理として副委員長として出ていた。その意味では、ちょうど良いつなぎになったのではないかと思います。

(記者：時事通信)

社会保障常任委員会の委員長に平井さんが就任されました。少し前にも公立病院の再編の話が出されていますが、今後こういう議論が高まるにつれて、重要なポジションになると思いますが、今回の意図と今後に向けての意気込みを教えてください。

(飯泉全国知事会長)

まさに今日委員長に就任をいただいて、そして昨日の厚生労働省における今後の地域医療構想についての話の中で、なんと424の病院の再編を全国一律の数値によって対応と。こうした点についても、やはり地域の実情をもっともっと国の方にはしっかり知っていただく必要がある。

何と云っても、東京都23区で病院が隣同士という状況と、島嶼部、中山間地域を抱える所で病院が隣同士では全く状況が違うわけですね。

こうしたものを、全国一律の数値によって、場合によってはその地域、地域で、国立病院であるとか、あるいは民間病院との重複を避けるという意味で、ある分野に特化をした、そうした公立、公的な病院が逆に、手術件数であるとか9分野に限って見て実は件数が少ないから使われていないよと。これもまた、実態に合っていないところとなるわけです。

そうした意味では、より中山間地域を多く抱え、これまでも例えば知事さんとしてだけでなく、介護保険、国民健康保険などを、旧自治省の時にも経験をしてきている鳥取の平井知事さんがやはり適任であろうということで、就任をお願いした。

そうしたところ、今日27日早速ということになりましたので、まさにタイムリーな対応ができるのではないかと考えています。

(記者：神奈川新聞社)

千葉県で災害が起きて、急を要する対応が必要かと思います。今回、危機管理・防災特別委員会の委員長に黒岩神奈川県知事が起用されました。

起用のねらいと期待についてお願いします。

(飯泉全国知事会長)

まず、本来なら鈴木委員長さんがそのままということもあったわけですが、先ほども申し上げたように、やはり地方創生も今大きな局面。国が第二期計画を作り上げいく、その中にまさに知恵は地方にあり、総理が言った言葉でありますので、それを打ち込んでいく必要がある。

ということになれば、古田本部長さんとも相談をさせていただいた上で、フレッシュな感覚で、より行動力のある人をとると、ここは鈴木知事さんしかいないであろうということ、まず、抜擢させていただいた。

そうすると、防災が空いてしまうということになります。今回の関東の状況を見てまいりますと、例えば、我々の四国、九州というのは台風常襲地域であり、それなりの備えというものができあがっているところなんですね。

しかし、今回の千葉県を見ても日頃は台風が来ないところを襲ってくる。しかも大型化する。風速 49 メートルというのはほぼ経験に無いものであります。あるいは、少し前には鬼怒川の堤防がする。あるいは、北海道に台風が上陸をする。普通は北海道には台風は来ないんですね。ということで、実は北海道は多くのところで堤防がない。こうした、東日本の状況を考えますと、やはり防災危機管理。この、委員長さんになるべく、関東の雄県になってもらう必要があるであろうと。そして知事さんとしての期数であるとか、あるいは防災の対応状況を鑑みたときに、これは黒岩知事さん率いる神奈川県に担って頂くしかないだろうと。

こうした点を考えて、黒岩知事さんの方にぜひということでお引き受けをいただいたところです。

(記者：神奈川新聞)

昨年の災害救助法の改正にあたりまして、知事会の会長の代理人として黒岩知事が存在感を発揮しました。そういう点も考慮に入っているのでしょうか。

(飯泉全国知事会長)

これまでも、そうした点での発言力が大変強く出されています。官邸との関係も重要となってまいりますので、そうした意味でも良いのではないかと考えました。

以上